近づく秋まつり

大名行列など盛沢山

今年は農産物品評会も

秋まつりは例年どおり十一月一日から三日間、役場・商工会・農協その他各種団体の共催でおこなわれるが、今年は小学校の創立八十周年記念行事ともぶつかるので相当の盛況が予想される。とくに今回は合併後初のお祭りであり、農産物品評会や各小・中学校、保育所、高等学校生徒の作品展がおこなわれるほか、母の会の特別食堂営業、スライド映写会、商工会によるバザー、大名行列、みこし運行など盛沢山のスケジュールが組まれている。

品評会の出品要領

十一月一日から三日間にわたつて新町第一回の秋まつりが盛大に行われることになつているが、この期間中に町当局をはじめ町内の各種団体が共催して次の要領で農産物品評会を開く計画をすすめている。

△会場　金木小学校

△出品種目

（穀類の部）種籾、玄米、豆類、トウモロコシ、ソバ、粟、菜種その他（各五合）

（果実の部）リンゴ、ナシ、カキ、ブドウ（各五個）栗、クルミ（各五合）

（そ菜の部）大根、長芋（各三本）ゴボウ（大〆一把）人参、仏掌イモ（各五本）里芋、たかな（各五株）カボチヤ（二個）かぶ、その他菜類（各五個）

（日本の部）株稲、枝豆、その他（各三株）

（農工品の部）ムシロ、カマス（各二枚）ゾウリ、ワラジ、ツマテ、馬グツ（各一足）ケラ（一枚）機械縄（大五〆一たま）平なえ縄（一束）

（加工品の部）澱粉（五合）蜂蜜（二合）葉煙草（十枚一束）

（参考品の部）農業生産上参考になるもの

会場にも第一位を獲得しているだけに合併による今回のと合せて二連覇というところ。

血のつながつてる親子が仲よく走る親子競走は大のオヤジがセガレがせつかく追いこして来たバトンをミスミスまた越されてしまうなど、とんだ親子風景だつた。またこれは嫁婿とその親とは血がつながつてないということで御法度になつた組もあるなど笑いの一コマを演じた。

この日の呼びもの仮装行列は見る人をアツトいわせ、花咲かジジイが灰ならぬ小紙をまけば、馬上の殿様が『これはみごと…』というせりふもうけがよかつた。賞状授与に花咲かジジイを呼べば、偉い殿様がノソノソと双手をさし出したり、化粧をおとした七人がゾロリと並んだ〝七福神〟はただの女七人で、まるで芝居のサムライがチョンマゲ落したみたいな恰好。

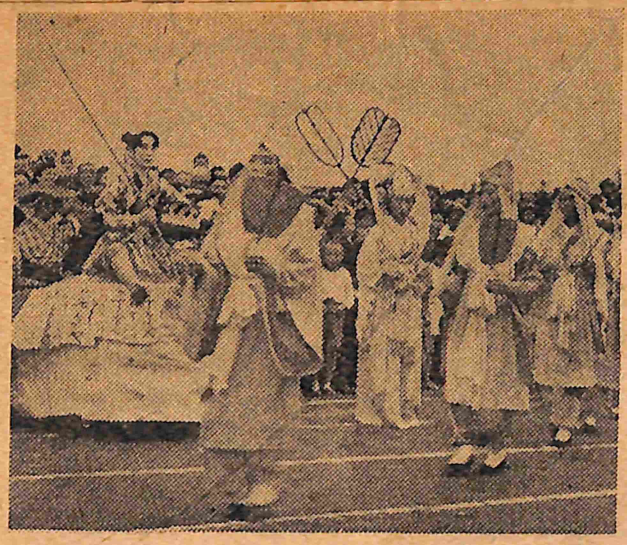
参加した十五チームの成績はつぎのとおりとなつている。

①藤枝、若松、見晴町②岩見、更生③古町、鍛冶、新誠町④中柏木、小栗崎⑤山道、昭和、大東ケ丘⑥本町、栄、田、南新町⑦派立、新、昭、車町（嘉瀬）⑧川倉⑨喜良市⑩小田川⑪沢部、三軒町⑫寺、新、浦町、芦野⑬小川、米、川端町⑭神明、朝日町⑮長富

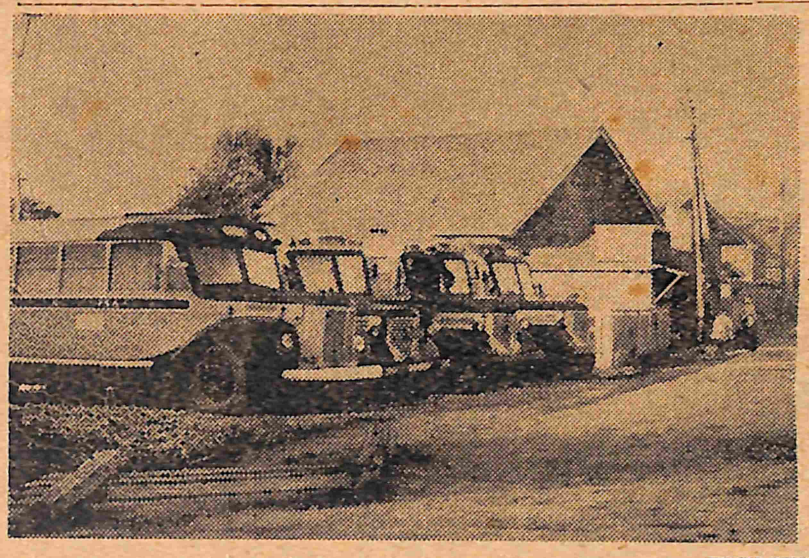
全町あげての運動会

洪笑のウズ、仮装行列

あたらしく合併した大金木町々民が相互の親和をはかるため九月十七日芦野グラウンドで大運動会を行つたが、第八区（藤枝、若松町、見晴町組）がみごと優勝、岩見町、更生部落が第二位、古町、鍛冶町、新誠町（嘉瀬）が第三位に入つた。



町民大運動会、浦島太郎の仮装行列



【写真…新設された弘南バス金木出張所】

芦野公園内に遊園地

事業収益で児童文庫も

去る二十七日金木町保育所母の会役員定例会を金木町第二保育所（金小内）で開いたが、秋まつりの行事として期間中、会場の中心となる金木小学校に食堂を経営し、その益金でもつて、町内にある二保育所の設備を拡充することをきめたほか保育所修了児のお母様方とともに母親クラブを組織し今秋から芦野公園の一部を借りて児童遊園地と児童文庫を建設すると共に、児童福祉の向上を図る目的でもつて結束することを決議した。なお母親クラブ組織の大綱は次のとおりである。

△趣旨　母親クラブは家庭の母親に対して児童の余暇指導、健康栄養、社会生活訓練等に関する正しい知識をあたえることによつて、健全なる児童の生活指導に遺憾なきを期することを目的とする。

△組織　当初町内にある二保育所の修了児童及び現在入所している児童の母親を中心に、一般家庭にも呼びかけ逐次組織を拡大する。

組織の時期は十月二十日前後とする。但し脱退・加入は自由である。

△事業　当初の事業としては児童遊園地及び児童文庫設置に重点を置き逐次児童福祉向上のための事業を行う。

これがため収入を図る事業も併せて行う。

所会育の保母

郡北の路線強化

弘南バス、金木に出張所

弘南バス五所川原営業所では当町に出張所を設け、金木地区を中心に交通網の拡張を計画していたが暫定的ではあるが、事務所及び車庫を南新町白治食料品店の一部をかり、予定より約一カ月遅れて去る八月三十日から営業を開始した。当地区を中心にした交通網の拡張は、地域住民の数年来の要望で、花田町長はじめ金木商工会が、機会ある毎に陳情要請してきたのであるが、営業主体が津鉄バスから弘南バスにかわつた今日、漸く実現したもので、出張所設置に尽力した関係者は町発展将来のために、今後全町あげて協力を願いたいと語つている。

出張所の規模は運転手八名、車掌九名の計十九名、自動車は金木四台のほか富野、毎賀、富潟に各一台の計七台となつており、路線は再賀線、砂山線、喜良市線、富野線、五所川原―小泊線と大巾に拡充された。

△千葉運輸係の話＝出張所を開設して日が浅い関係か、一日の平均収入は八千円から一万円台であまり芳しくありませんが、将来に希望をもつてサービスにつとめています。金木―神原線及び嘉瀬―喜良市線の道路が予想以上に悪いのには驚きました。そしてこのせまくて悪い道路上に商品の陳列、自転車やその他の障害物の多いのはどうしたことでしよう。二十九日から金木―神原間を町の皆様が出動されて砂利を敷いてくれ、非常に感謝いたしておりますが、交通事故の危険防止にもご協力願えたならばと念じております。

水呑場なども寄付

建物が危険でそのうえ不健康である金木町第二保育所では、このたび金木高等学校が新築校舎に移転したそのあとの金木小学校の三教室を借りて、入所児童の保育に万全を期することになつた。保育所母の会では子供たちに不自由な思いをさせたくないというので、慈善ダンスパーテーや演芸大会などで得た収入をそのまま自動給水器のついた水呑場や、保育用具を寄付し、町長はじめ保育所職員を感激させた。

発表会の出しものなど決る

迫る金高開校記念日

開校記念日を十月下旬にひかえた金木高校では恒例の芸能発表会に備えて演劇斎藤茂治作『龍の池』関口次郎作『乞食と夢』をはじめ舞踊など盛沢山のスケジュールを予定している。

なお同校では新校舎移転によつて新たに使丁を採用することになり九月一日付で見晴町算用子勇五郎さんを発令した。

ネブタの祝儀寄付

感心な米町こども会

均取入は八千円から一万円台であまり芳しくありませんが、将来に希望をもつてサービスにつとめています。金木―神原線及び嘉瀬―喜良市線の道路が予想以上に悪いのには驚きました。そしてこのせまくて悪い道路上子供会で作つたネブタを運行してもらつた収益を養老院の不幸な方々にやつて下さいと役場にさし出したという感心な子供たちがあつて、その善行は東奥日報にも記載されたが、大人の心をも動かすおこないだと町内の人々から賞められている……。

このうわさの子供たちは米町、三軒町の子供たちで、津島定雄君同勉君（金中三年）田中誠一君（小六年）小野正幸、秋元広敏君（小六年）結城隆君（中一年）らが中心となつたもので、いつさい子供だけでネブタを計画してやつたものだといつている。

青年団、十和田に親睦旅行

連合青年団金木分団では去る八月二十一日団員相互の親睦をはかる一つとして貸切バスで十和田湖めぐりをおこなつたまた同分団が音頭をとり、これまでの盆踊りをもつと健全なものにしようと従来までのような寄附を募つての賞品づき盆踊り退放に乗出し、町内の人々からよろこばれている。

種苗業者は届出が必要

種苗業を営んでいる者は届出をするようにと、このほど県の農務課から通達が入つた。それによると県では現在種苗業を営んでいるものの営業状態を把握しているいろな参考に資するためであり、提出方法は従来通り副本二通を送付することには変りない。

届出要項次のとおり。

一、届出の種類を次のいずれかに分類して記入する。

（イ）あらたに営業開始した場合

（ロ）あらたに営業所を設けた場合

（ハ）従前の届出事項変更ある場合

二、右事項の開始年月日及び設置事項変更年月日も同時記入のこと

三、当該営業所において取扱う種類については、そ菜草花個々に分類し作物名を具体的に記入のこと

四、右の記載事項は届出書（農林大臣あての分）と区別し別紙様式により記入されたい。

毎月二十日に

慈善パーテイ

さわらび主催、母の会後援の慈善パーテイの第三回目は去る八月二十九日夜保育所ホールでおこなわれた。集つた寄附は全額保育所の施設拡充費に役立てられるが、このパーテイは今後毎月二十日に開かれることになつている。

三役就任のことば

去る八月八日に招集された第四回臨時町議会において議員各位の御信任を辱うし夫々特別職に就任することになりました。小職等は今後町議会並びに町民各位の信頼に背かぬよう全力を傾注し、新金木町の発展のため挺身致します。

昭和三十年九月三十日

金木町助役　三上　武男

金木町収入役　伊丹岡勘二

金木町固定資産評価員　木立民五郎

三上氏

伊丹岡氏

木立氏

☆☆☆町民の声☆☆☆

★★★★★★★

一人八百字以内、紙上とく名はかまいません。締切りは毎月その月末です。

お祭りと寄付

寄附をとられることで一番不快な行事が二つあつた。一つは『虫おくり』ともう一つは『盆踊り』である。『虫おくり』は古い時代からのならわしか田植えの後になると迷信そのもの。行列を作つてやつて来る。原子力時代の今日、根も葉もないようなこの行事をしかも新しい、進歩した教育を受けた若いものが先頭をとつてやつているのだから実にいいようがない。きくところによるとこの主催は青年団とは別に若者の有志だとのことだが、町内のすみずみからふんだんに寄附をせびつてそれぞれ自分たち本位のことで使うというのだから全くあきれる。彼らのレクリエーションだと思えば、あの赤じゅばんの立振り姿に愛らしいところもあるが、まるで興行ものようなやり方には私はかりではなしにまるつきり農事に関係のない町民にとつては甚だ納得のいき兼ねるところであろう。行列を見る人が花代としていくらかを差し出すのはいいとしても、人数や田畑に応じて寄附をとるということはおかしいし、科学を知らぬ老人はともかく、文明に浴しているいま時の若者の矛盾した考え方にもいささか驚かさせられる。しかし町の一つの風俗として継承させるような文化財の類のものであるならば、何もやつて悪いということはない。要はその行事のやり方だ。若者同士のレクリエーションであれば、もう少しその健全化に若者らしい考えをもり込んで、町民の疑惑を考えるべきではないか。来年の『虫おくり』までこのことをじつくり反省してもらいたい。

『盆踊り』については金木青年団の力の入れ方が実を結んだ。若い人が積極的に動いてくれることは町を住みよくする原動力である。賞品をくれなくとも好きな人は踊るのだし、むしろ賞品をもらつた人、もらわない人の気まずさが消えただけでも心からみな楽しめるようになつた。同青年団に対して感謝したいくらいである。

（芦野・H・Y生）

斎藤警察署長の巻

警察官のことをよく『ダンナ様』といつてたのを思い出す。悪タレワラシが『ソラツ、ダンナ様来た』といつて逃げかくれた子供の頃を覚えているが、今ではこのダンナ様もずい分と民主化されて民衆の中にとけ込んで来たものだと思う。といつても『ケイサツ』と聞くとやつぱりどこかにいかめしさを感じる。ところでそのいかめしさの中でどつしり大イスに坐つている署長さんをある秋日和の朝、署長室にお訪ねしてみた。

この道二十年というからずい分と長い。それだけに人徳も大したもので、その手腕は県下の指おり。今春の大異動で南部五戸から津軽を開拓しに来られたようなものだが、署長さんにしてみればこの町は小学生時代神田橋を渡つてよく教科書を買いに来たというからいわばゆかりの土地。さすが人を見ぬく商売がら津軽人の短所については『こちらの人は一般にいい方がぞんさいでコセコセした気性だが、むこうの人はことばはもちろん、態度もおつとりしているよく南部のヒエ飯などということばがあるが、こちらの身分不相応なせい沢に比べて非常に質素なところがあるようだ』といつてただし決してケチではありませんよとつけ加える。傍らの箱の中から五戸町のパンフレツトをとり出し、金木よりはるかに文化活動も盛んで哲学、映画、文芸、写真などたくさんのサークルが非常に活発だが、この町は知識層があまり動いてないのが目立つとおつしゃる。

趣味を伺つてみると『ハツハツハハ、無趣味が趣味ですよ…』と屈託なく笑つたが『小鳥を飼うこと？アデクサイものはわたし嫌いでね』と仰言るが、スポーツでは柔道、剣道以外オール得意とのこと。すばりというあたり相当の腕前をもつてるらしい。大の洋画ファンであるようだが『警察日記ですか？あれはよかつたですね。…まア警察なんてああいつたもンですナ。人生のいろいろな場面があつて面白いとこですよ。』

変化があり過ぎてね…』とシンミリ仰言る。二十年このかた社会の〝悪〟と取り組んで来ているだけに『社会人として広い意味での悪人にはなりたくない』のが署長さんのモツトー。〝若い人たちにはダンスも結構、何をするも結構〟が持論。当の署長さんにも若い頃の思い当りがあるそうな……。今では一女の良きパパさんでもある。

最後に町民への希望を問うと『…さて困りますなア…』とぶつけなこの質問に当惑したらしいが、環境のせいか町全体がさびれている感じがするとポツリおつしゃつた。（松江記）

【〝若い頃の思い出だつてありますヨ〟と署長さん】

〝無趣味が趣味ですヨ〟

この道二十年　県下の指折り

魔と邪と

ちよっと　（1）

白いとこです。教育と違つてよ。

治水事業に主力

苦労する金木土地改良区

土地改良法が施行されてから満五カ年に近い。法の目的は農業経営の合理化、農業生産力の発展させるための農地の改良、開発、保全集団化（交換分合）にある。しかしてこの事業の施行に当つてはあくまでも国土資源の総合開発を考慮したものでなければならない。もちろんこれは政令で定めた計画基準によることを根本としている。金木土地改良区は郷土の環境が生んだ申し子である。日本の貧困な農林予算はこの生れたばかりの土地改良法を育む力をもつていないのである。結論からいつて自立自営これが与えられた土地改良区の宿命である。

× ×

今の金木土地改良区は治水事業に向つてバク進している。『治山治水』昔から離しい事業の一つに数えられている。政治の善悪もこの一点にあつた時代があつた。金木町を流れる金木川、小田川その他大小の用水路を治め得たら後世に名を残す為政者であるといいうるだろう。治水を事業とする改良区に治山の事業が当然つながつてくる。

× ×

事業にはそねみがつきものだ。ご多分に漏れず金木土地改良区も事業の進捗に従つてそれがある。春雪時に淡き頃はその事業の無暴を冷笑し、また声高く叫んだ連中が、自己反省の大人になりすとんでもない的外れの中傷を県庁などに投書したり、さては口頭弁論。事業の推進は決断を必要とする。一定方針のあるところ執行者の勇気は、ともすれば独裁とも見られる。決断、勇気、独裁、これはすべて責任が含まれていなければならない。

弦を放れた矢は的に直進するし、弱者の農郷は梅雨時の長雨に似ている。強者よ、自信のかげに細心の注意を払え。

× ×

小田川の尽くるところに浮洲の排水あり、飯詰川の尽きるとこ駒留揚水、何れも旧十川につながる水脈。天気続きの昭和三十年は、稲もさることながら金木土地改良区にも工事の天恵があつた。増産一本道、竣工間近くただただ感謝あるのみ。（改良生）

母は奴隷じゃない

父親の暴君を戒める

穂積　弘

お父さま、あなたもやつぱり、わんぱく時代がありましたね。その時代を思い出してみて、あの時あなたは、満足していましたか。恐らく、お母さまに対して暴君だつた自分の父親に、ある義憤を感じていたでしょう。

いま！あなたのお子さまは、あなたに対してどんなことを感じられるでしょう。そんなことを思い出したことがありましようか。あなたが小さい時みていたようにあなたのお子さまも、いまあなたをじつとみているのです。

お父さま、お母さまは、子どもたちにとつて、誰より一番大切なもの、喜びなのです。そのお母さまを、奴れいの座に坐らせないで下さいね。あなたの妻ではありましうが子供にとつては『お母さま』なのです。お父さまが、お母さまを尊敬すれば、子供はお母さまを尊敬し、やがては両親を尊敬する人となるのです。

『調査室』の窓から

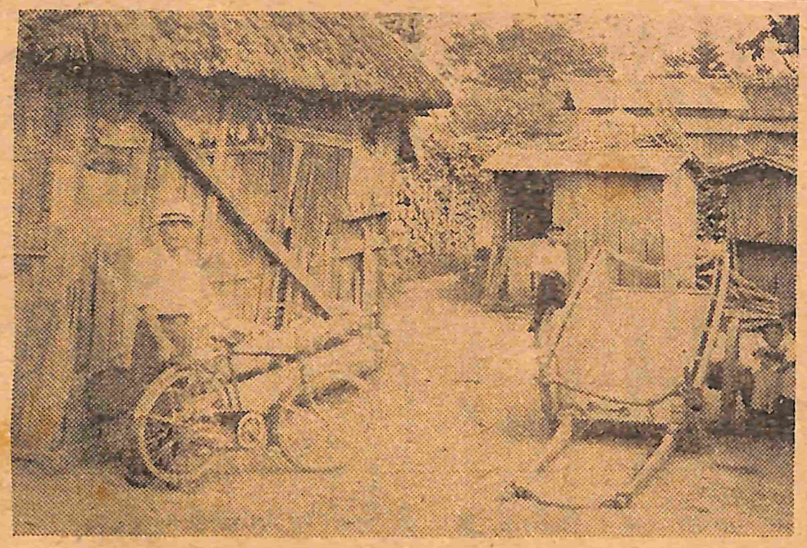
▼映画『二十四の瞳』に出てくる大自然の美しさに似た夕暮れの旧十川河畔―ポプラの並木が西陽に光つている。一望に見える合併金木町―その役場窓口に座つて一カ月余、それは勉強でもなく、努力でもない。ただ凝視である。

▼十有余年役場のイスに座つて、兵隊に引張り出され、戦に敗けて呆然自失、われにかえつて力んだとたんに追放―長かつた格子なき牢獄からアプレ政治の嵐に突入して四年、水に遅れた雑魚となる。

▼与えられた調査室に座つてはみたものの、さて何が私の仕事やら―全く凝視である。死んだ太宰治さんから〝気どりやの町金木〟としてきかされたこともある。この金木町が大きくなつて役場の中の仕事の分担が直ちに各課各室の機構に分れ、玩具のパノラマー失礼ないい分かも知れないが、敗戦十年の間役場機構もずい分進歩発展したものだ。

▼『調査は企画でなければならない』と町長はよくいうが、その第一歩は財政計画建直しに尽きるのではないかと思う。例えば歳入構成と歳出構成の健全バランスだとか、公営企業の研究と着手、あるいは産業構造の組替と特定財産の処分などがあげられよう。

私もとより楽天的人間、悲観的材料の中に希望観測し、心耳を澄まして秋の足音をきく。（K生）



農繁期に多い病気

農繁期に起り易い病気といつてもその種類はいろいろありますが、子供に多い病気としては呼吸器病、伝染病、眼病などで、これらは農村特有のものではありませんが、ただ伝染病、栄養失調症、寄生虫症が都市よりはるかに多いことは、農村における生活条件、特に食生活と深い関係をもつていることに注意しなければなりません。

農繁期には、冒腸病が最も多く、高血圧もこの時期から目立ち、また神経疾患も増加するといわれます。老年になると長い間の無理な農業労働や不合理な生活様式からくる病気、例えば神経系疾患が著しく多くなるといわれます。

長時間、しかも不自然な状態で手労働を中心とした農作物は、体の特定個所を度をこして使つたり、また体を冷したりする結果、体にいろいろ悪い影響を与えますが、過重な労働にもかかわらず、その栄養源は米や麦にだけ求め、これを大量にとるだけで副食が極めて少いから、冒腸の負担を過重にした割に栄養がとれておりません。農作業が忙しい時など体を大切にするように心がけ、住宅、栄養、衣服など労働や生活条件に合理性を持つようにしたいものです。

（『県政メモ』より）

娘さんも熱心に受講

好評だつた食生活講習会

金木連合青年団の生活部は去る八月二十七日夜七時から保育所で松江生活部長の実地指導による食生活の講習会を開いた。

この日集つたのは女性団員が多く夕食後の片付を済んでからはるばる蒲田からナベ、カマをもつてかけつけて来た熱心な団員もあつた一同アネサマかぶりにエプロンの身仕度よろしく螢光灯の下で熱心に指導を受けたが、なにせ夜間の食講習という変りものだけに帰りの護衛のため男性団員も出動するなどまさに青年団ならでは見られぬ頼もしい風景が描かれていた。時折現場も視察にやつて来て〝大シタモンダネシ〟とニヤニヤ。出来上つた料理の試食会に招かれて女性団員腕のよりどころをご披露すれば、遠慮がちに箸をとり〝チンボアンパイイイモンダネシ〟とお世辞ならぬ賞賛をほめかしてサービスを受けるなど、和気あいあいのうちに終つた。

これでは困る

私有地と町道の区別

【問】写真のように自転車をもつて立つている所を横に線を引いた手前と中央ズツト向うの便所の後から横に引いた線の奥のせまい道路が町道でこれを連絡づけるのは個人所有の屋敷。こんなところがまだまだあると思う。いずれにしても早く解決してもらいたいものである。（嘉瀬・M生）

眞相を調べて解決

【答】合併後日が浅く事務的に急ぐものが多いので遅くはなりましたが、真相を調査し一日も早く解決したいと考えています。（役場総務課）

一般から基金募る

蟹田町に太宰治記念碑の計画

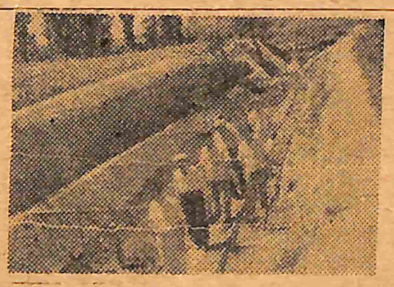
わが町が生んだ作家故太宰治氏の記念碑が、ゆかりの上磯地方観瀾山に建てられる。この計画はようやく実行の段階に入り、県内の文化団体や一般篤志家からその基金を募つている。

これは東郡蟹田町が発起人となつて運動を展開しているもので、寄附の方法は一口金五百円となつていて、希望者は申込用紙に口数、金額、住所、団体名、氏名を記入して現金で同町役場太宰治記念碑建立委員会宛に送ればよい。町民各位の協力もお願いしている。

揚水ポンプなど年内完成へ

九百石以上増収に見通し

本年三月二日に漸く設立認可になつた金木町土地改良区（理事長木立民五郎）が事業主体となつて、金木地区（浮洲）に排水、嘉瀬地区（萩元、駒留、雲雀野）に揚水ポンプを設置すべく一月から着工したが、関係者の熱意と努力が実結び、当初一カ年計画の予定だつたものが本年中に完成する見通しがつき、受益者からは非常に感謝されている。



【写真…完成近い浮洲地区排水ポンプ水路】

△木立理事長の話―ここまでこぎつけるまでの関係者の苦労は並大抵でなかつた。

一年早く完成をみることのできたのは関係官庁、業者、金融機関の絶大なる協力はもちろんのこと、受益関係者及び改良区役員の汗の賜です。

これが完成されれば関係地域だけで年間九百石以上の増収が見込まれるばかりでなく、夜間の水引きも解消されることになるので、この工事の完成後にご期待願います。

人事異動（八月十日附）

（二頁より続く）

△建設課

課長　白川　常英

係長　白川　常一

①建設一切に関する事項

編集あとがき

△…機構改革後の大市な異動を行つたこの秋九月、町民運動会、国勢調査の準備と今までにない忙しさだつたが、台風もちよつとあばれた程度で過ぎ去つてくれ、そのうえ稲は大豊作間違いなしの線もくずれず、職員一同ホツトした面持ち。

△…だが忙しさを超越した安心感に、気合いを抜いてやつとできた本号ではあるが、町民のみなさんが『町』のことを心配されて、ご忠告やご鞭撻のことばをたくさんお寄せになつたことには編集子大よろこぶ。今後もよろしく……。（編集子）

展眞写　第1回　合併記念

一、会　期　十一月一日から三日まで

一、会　場　金木小学校

一、申込締切　十月二十五日

締切日までに白常商店に搬入のこと

一、規　格

イ、四ツ切以上で黒白、天然色何れにても可

ロ、題は自由

ハ、出品点数は制限しない

主催　金木カメラ・クラブ